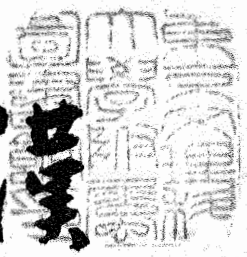

漢文學會報

穆堂島田鈞一先生追悼號

第七號

昭和十三年三月發行

東京文理科大學漢文學會

漢文學會々報

第七號

穆堂島田鈞一先生追悼號

東京文理科大學
漢文學會發行

漢文學會々報 第七號 目次

穆堂島田鈞一先生追悼號

島田先生御肖像

島田先生墨蹟

島田先生略歷

追悼號發刊之辭

弔辭……諸橋轍次（八）

弔辭……內野熊一郎（九）

魯詩攷……島田鈞一（一）

陸象山の學統……內藤由己男（二元）

五典考……松下忠（四八）

永明聲韻說……陳蔡煉昌（六六）

島田先生の思出……內野台嶺（八八）

島田先生を偲び奉る……田波又男（九〇）

學會彙報……（九四）

編輯後記……（九六）

故 島 田 一 郎 先 生

出處進退慕聖賢精通周易著玄編好
甘如邂逅塵累身如老松貞節全

漁邨先生著有周易古占法故及

穆堂學人

鳥田先生墨蹟

島田鈞一先生略歷

慶應二年七月十五日　島田重禮博士ノ長男トシテ、下谷區御徒町ニ誕生
明治十七年九月　帝國大學文科大學古典科漢書課ヘ入學
同　廿一年七月十日　同課卒業
同　廿五年十月一日　私立哲學館ニ於テ支那哲學ヲ教授ス
同　廿六年五月一日　支那歷史ノ教授ヲ囑託ス（東京府尋常中學校）
同　廿七年一月十日　漢文ノ授業ヲ囑託ス（第一高等中學校）
同　年　九月廿二日　任第一高等學校教授　敍高等官七等（內閣）
同　年　十月三十日　敍從七位（宮內省）
同　廿九年十二月廿六日　陞敍高等官六等（內閣）
同　三十年三月一日　敍正七位（宮內省）
同　卅三年八月七日　陞敍高等官五等（內閣）
同　年　九月廿九日　文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス（文部省）
同　年　同　日　敍從六位（宮內省）
同　卅五年四月十五日　復職ヲ命ス（文部省）
同　卅七年七月九日　陞敍高等官四等（內閣）
同　年　九月七日　敍正六位（宮內省）
同　卅八年二月四日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　年　六月廿一日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（同）
同　卅九年六月十五日　同　（同）
明治四十年六月廿二日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　四十一年五月二日　陞敍高等官三等（同）
同　年　六月廿三日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（同）
同　年　九月十日　敍從五位（宮內省）
同　年　十二月廿五日　敍勳六等授瑞寶章（賞勳局）
同　四十二年六月廿一日　教員檢定委員臨時委員被仰付（內閣）
大正二年六月十八日　敍勳五等授瑞寶章（賞勳局）
同　年　十月十日　敍正五位（宮內省）
同　四年十一月十日　大禮記念章授與（賞勳局）
同　七年十一月二十日　敍從四位（宮內省）
同　八年七月廿九日　敍勳四等授瑞寶章（賞勳局）
同　九年三月卅一日　第四文學科主任ヲ命ス（第一高等學校）
同　年　六月一日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　十年七月一日　勅任官ヲ以テ待遇セラル（內閣）
同　十一年四月一日　本學豫科講師ヲ囑託ス（東京商科大學）
同　年　九月八日　文部省視學委員ヲ囑託ス（文部省）
同　十二年十二月十日　漢文教授要目調査委員ヲ囑託ス（第一高等學校）
同　十三年五月十九日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　年　九月十一日　同　（同）
同　十四年四月廿七日　同　（同）

大正十四年五月九日　陞敍高等官二等（內閣）
同　年　九月廿八日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（同）
同　年　十一月廿五日　敍勳三等授瑞寶章
（賞勳局）
同　十五年三月廿四日　教員檢定委員會臨時委員會被仰付（內閣）
同　年　六月十五日　敍正四位（宮內省）
同　年　九月十六日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
昭和二年九月十二日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　三年九月十五日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　年　十一月十日　多年教育ニ從事シ勵精其職ニ盡シ功績顯著ナリ仍テ大禮ヲ行ハセラルヽニ方リ之ヲ表彰ス（文部省）
同　四年四月一日　任東京文理科大學教授　敍高等官二等（內閣）
同　四年四月一日　兼任東京高等師範學校教授敍高等官三等
（內閣）
同　年　六月一日　第一高等學校名譽教授ノ名稱ヲ授ク（同）
同　年　九月十日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（同）
同　年　七月十五日　陞敍高等官一等（同）
同　年　九月一日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（同）
同　六年四月廿八日　中華民國及暹羅國ヘ出張ヲ命ス（文部省）
同　年　七月一日　敍從三位　宮內省）
同　年　七月廿三日　旅行中ノトコロ歸朝　〃
同　年　八月廿八日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　七年三月三日　依願免本官並兼官（同）

同　年　三月十五日　敍正三位　特旨ヲ以テ位一級被進（宮內省）
同　年　三月四日　昭和六年度本學講師ヲ囑託ス（東京文理科大學）
同　年　三月廿一日　昭和七年度本學講師ヲ囑託ス（同）
同　年　三月廿一日　昭和七年度本校講師ヲ囑託ス（東京高等師範學校）
同　年　八月二十日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　八年三月廿一日　昭和八年度本學講師ヲ囑託ス（東京文理科大學）
同　年　同日　昭和八年度本校講師ヲ囑託ス（東京高等師範學校）
同　年　九月四日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　九年三月廿一日　昭和九年度本學講師ヲ囑託ス（東京文理科大學）
同　年　三月廿一日　昭和九年度本校講師ヲ囑託ス（東京高等師範學校）
同　年　九月十三日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　年　三月廿一日　昭和十年度定學講師ヲ囑託ス（東京文理科大學）
同　年　九月五日　教員檢定委員會臨時委員被仰付（內閣）
同　十二年十二月十三日　授旭日中綬章（賞勳局）
同　年　同月同日　薨去

追悼號發刊の辭

穆堂島田先生の薨去は我が漢文學會に取つて償ふ可らざる損失である。昭和四年東京文理科大學の開設せらるるや、先生は最初の漢文學科教授として來任せられた。溫乎たる其の德容と深遠なる其の造詣と、世は皆其の人を得たるを喜んだ。創業の難きは多く局外の者の窺ひ知り得る所ではない。然かも先生の學と德とは不言の間に其の困難を打開せられた。爾來教授として三年講師として數年、或は御退職の後に於てさへも、終始一貫學生の指導と學會の發展とに寄與せられた。我が漢文學會が兎も角も今日の業績を得るに至つたことは偏に先生の賜である。穩健中正なる見識の下に、深く藏し內に蘊み、其の學ぶ所を以て脩齊の資と爲さんとするのは先生の學風であつた。斯の志を繼ぎ斯の業を承くるは後繼者たる我が學會當然の責務でなければならぬ。先生の薨去に對し虔んで哀悼の忱を致すと共に併せて學會の決意を固めたいと思ふ。